

平成 28 年土石流調査情報（桜島地域） 第 16 報（臨時報告）

（通算第 159 号）

1. 桜島の噴火による降灰の状況

桜島の昭和火口で平成 28 年 7 月 26 日 0 時 2 分に爆発的噴火が発生しました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は 5 合目（昭和火口より 500 から 800 m）まで達し、多量の噴煙が火口縁上 5,000 m まで上がりました。桜島島内の西側から南西側でやや多量の降灰が観測されたほか、鹿児島市から日置市にかけての広い範囲で降灰を確認しました。

（「火山の状況に関する解説情報（桜島第 51 号）」（平成 28 年 7 月 29 日 16 時 0 分）
福岡管区気象台・鹿児島地方気象台 より 抜粋）

当事務所では、降灰に起因する土砂流出等の影響を検討するうえで必要となる降灰分布や降灰量を計測・推定しています。今回の爆発的噴火による降灰量について、検証中の自動降灰量計等データを別紙のとおり情報提供致します。

資料-1 桜島の噴火による降灰の状況（XバンドMPレーダを活用した降灰観測結果）

資料-2 桜島の噴火による降灰の状況（自動降灰量計観測結果）

資料-3 今回の爆発的噴火について

2. 土石流災害の危険性

噴煙が 5,000 m に達したのは 2013 年 8 月 18 日以来ですが、この噴火では、島内の 1 平方メートルあたりの降灰量が最大で約 4 kg であったことから、今回の噴火による噴出物の量（1 平方メートル当たりの最大で 211 g）はこの噴火の 10 分の 1 未満であると考えられます。

（「桜島の火山活動解説資料（平成 28 年 7 月）」福岡管区気象台 地域火山監視・警報センター、鹿児島地方気象台より 抜粋）

しかし、昭和火口周辺では、山腹斜面に降下火砕物が厚く堆積し、谷部では侵食が進行しているため、今後も土石流が発生しやすい状況となっています。今後、鹿児島地方気象台及び鹿児島県より土砂災害警戒情報が発表されるような大雨が降るような状況の場合には、土石流やがけ崩れによる被害が発生する恐れがありますので、土砂災害警戒区域に指定されている地域では十分警戒が必要です。

3. 今後の対応

九州地方整備局大隅河川国道事務所では、今後も桜島の噴火に伴う土石流等の調査を継続的に行い、適宜、情報提供させていただきます。

※この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第 29 条第 2 項に基づく情報の随時提供です。

○桜島の噴火による降灰の状況（XバンドMPLレーダを活用した降灰観測結果）

XバンドMPLレーダ観測によると昭和火口付近から噴煙が北西方向に流れていることが確認できます。噴火に伴う降灰(7/26 0:00~7/26 0:40)は、桜島島内において最大で約0.2cm以下と推定されます。

◆噴火の概要

日時	2016年07月26日00時02分
火口	昭和火口
現象	爆発
有色噴煙	火口上5000m(海拔19100FT)
流向	南西
噴煙量	多量

※噴火に関する火山観測報(気象庁発表)

◆噴火時の大隅河川国道事務所TVカメラ画像



◆噴火の概要

日時	2013年08月18日16時31分
火口	昭和火口
現象	爆発
有色噴煙	火口上5000m(海拔19100FT)
流向	北西
噴煙量	多量

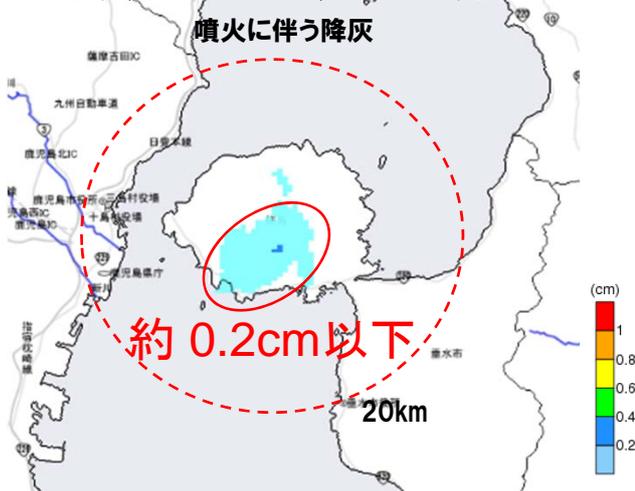
※噴火に関する火山観測報(気象庁発表)

◆噴火時の大隅河川国道事務所TVカメラ画像



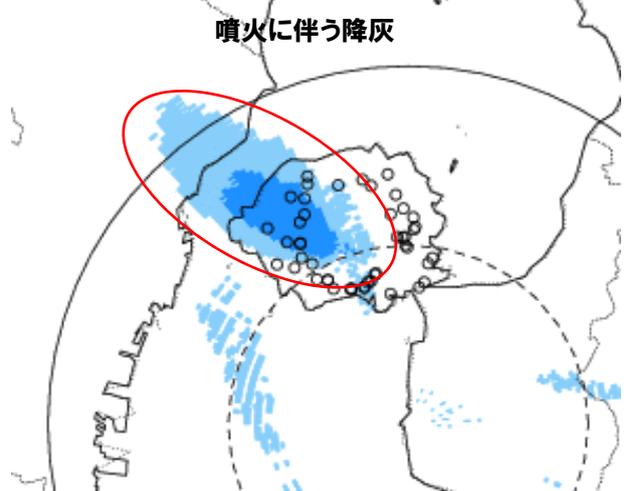
◆XバンドMPLレーダによる積算降灰深推定分布図

2016年(7/26 0:00~7/26 0:40)



◆XバンドMPLレーダによる積算降灰深推定分布図

2013年(8/18 16:31~8/18 18:00)



○桜島の噴火(2016/7/26 0:02)による降灰の状況
(自動降灰量計観測結果)

自動降灰量計の観測によると野尻、春松、持木、第二古里1、第二古里2、第二古里3、第一古里、有村2、有村1地点において下表のとおり、降灰が確認されています。

桜島の降灰観測結果(自動降灰量計)

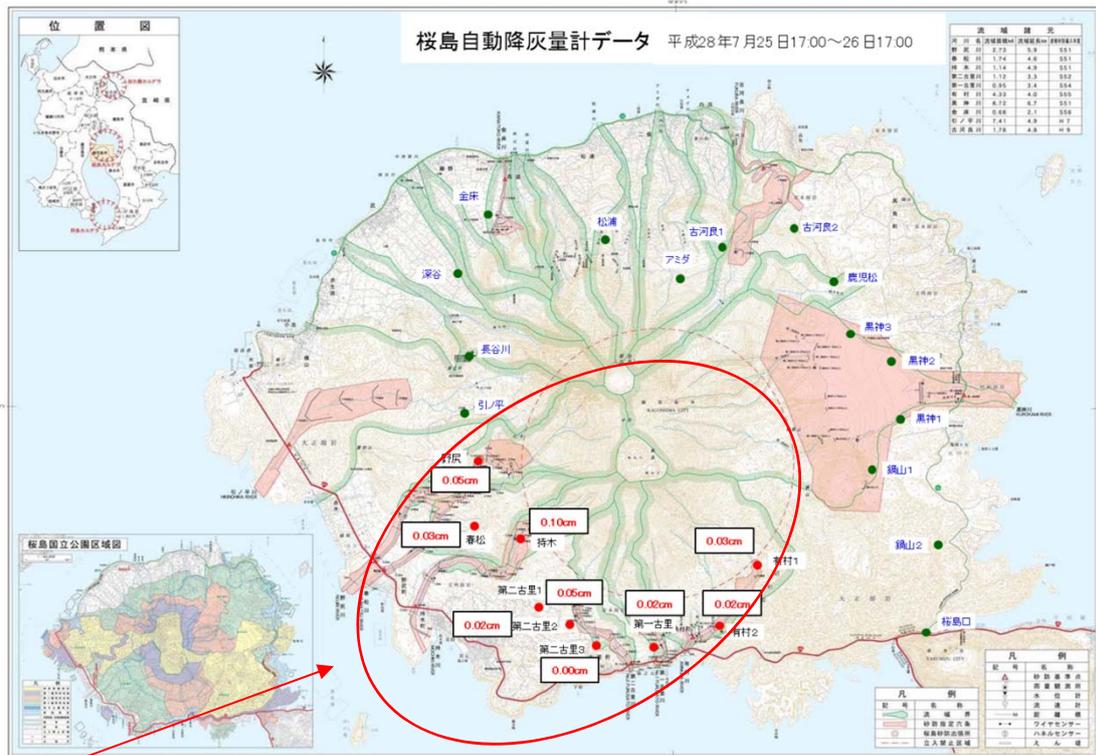
2016年7月26日0時02分 桜島の昭和火口噴火に伴う降灰量の地点別の変化量 (cm)

地点	野尻	春松	持木	第二古里1	第二古里2	第二古里3	第一古里	有村2	有村1
1日の降灰量	0.05	0.03	0.10	0.05	0.02	0.00	0.02	0.02	0.03

2013年8月18日16時31分 桜島の昭和火口噴火に伴う降灰量の地点別の変化量 (cm)

地点	野尻	引ノ平	持木
1日の降灰量	0.11	0.05	0.01

※計測精度: ±1mm程度
※降灰量は12時間平均値を使用



※ XバンドMPレーダを活用した降灰観測(資料-2参照)において降灰が確認された範囲

○今回の爆発的噴火について

大隅河川国道事務所TVカメラ画像



2016年 7月26日 0時02分
噴煙高 5,000m
飛散範囲 5合目
昭和火口より500~800m

噴火警戒レベル2から3へ引き上げ時の噴火

大隅河川国道事務所TVカメラ画像



2016年 2月5日 18時56分
噴煙高 2,200m
飛散範囲 3合目
昭和火口より1,300~1,800m

大隅河川国道事務所TVカメラ画像



今回の5,000m上昇時の画像
(※無風状態のため噴煙が上昇した模様)

- ・関係機関(鹿児島市危機管理課、東桜島支所、鹿児島市消防局、東桜島分遣隊 桜島駐在所)に確認しましたが被災の情報が入っていないとのことです。
- ・降灰の状況について
桜島島内の一部で歩道部に薄く堆積しており、対岸の鹿児島市内は車両のフロントガラスや歩道部にうっすらと付いているのを確認しています。
- ・大隅河川国道事務所が砂防事業を実施している桜島島内の11河川の砂防施設及び大隅河川国道事務所が管理する国道224号(桜島島内)に被害はありませんでした。